

平成 23 (2011) 年度 1 学期 国語科における授業実践記録

東京学芸大学附属国際中等教育学校国語科

山根正博・荻野聡・愛甲修子・石川直美・中田嘉種・長瀬瑞己・杉本紀子

今年度 1 学期に、1 学年から 5 学年において展開された国語科の授業実践を次の表に示す。

本校国語科の第 1 学年から第 5 学年の授業は日本の学習指導要領に沿うものであると同時に、第 1 学年から第 4 学年までは国際バカロレアの MYP (Middle Years Program) に基づくものでもある。よって、第 1 学年～第 4 学年については MYP において単元作成に必要とされている、AOI (MYP における教科を超えた学習領域。「Area of Interaction」と名付けられ、「学習の姿勢」「人間的創意」「コミュニティと奉仕」「環境」「健康と社会教育」の 5 領域に分かれる) と、単元ごとの主たる発問となる Guiding Question を記載した。

関連する AOI がどの領域になるかは各学年の授業担当者の判断によっている。基本的には常に「学習の姿勢」が基盤にあるが、それを前提として教材で扱うテーマや学習活動によって関連する領域を判断している。

関連する AOI は、授業者である教員が意識するだけでなく、授業を受ける生徒自身が自分で関連を意識することが重要であり、その意味では提示されている領域とは別に、生徒が他の領域と関連すると判断することもあり得る。こうした領域との関連を意識するのは、ある教科の授業で学習した事柄を、他教科での学習に活かすこと、あるいは教科を超えた関連を見だし学習をより深化させることがねらいとなっている。今後はそのねらいがどのように達成されたかを検証する必要があると思われる。

なお、2 学期の授業に関しては 9 月から 10 月の長期にわたって、本校が東京学芸大学の教育実習生を受け入れ、教育実習生が授業を担当している関係で表中には記載していない。

続いて掲載した指導案は、2011 年 2 月に開催した第 3 回公開研究会の公開授業の学習指導案である。実際の状況とは多少の違いがあるが、各学年の授業の姿が見えるものと思われる。各学年の授業においては、MYP における目標や Unit Question も設定しているが、ここに掲載する指導案では文部科学省の学習指導要領に沿って想定した目標・評価規準を記載している。MYP と国内の学習指導要領の相互をどのように取り入れていくかは、本校にとってもまだまだ検討しなければならない課題である。また、MYP 終了後の第 5 学年、第 6 学年の学習内容を第 4 学年次までのものとどう関連させていくかも長期にわたって検討していく必要があるだろう。

第一学年 国語科学習指導案

東京学芸大学附属国際中等教育学校
公開研究会

指導者 萩野 聡
日時 平成二十三年二月十九日(土) 第二時間目
教室 W棟二階 W二〇一教室
対象生徒 一年二組 二十七名(内部進学生)
教材 「生きる」(詩/谷川俊太郎)
『四季抄 風の旅』(詩画集/星野富弘)
『かぎりなくやさしい花々』(随想/星野富弘)
『花の詩画集 鈴の鳴る道』(詩画集/星野富弘)

一、単元名

「それぞれの生きる」

二、単元の指導目標

- ・ 主題に対する自らの想いを詩の形式で表現することができる。
- ↓ (文脈と意図を備えた、文学的及び非文学的特徴を用いたテキストを作る。)
- ・ 詩的な表現について考え、他者の作品から作者の想いを感じ取ることができる。
- ・ 作品から作者の想いを読み味わい、適切な批評を加えることができる。

三、単元の評価規準

関心・意欲・態度	・ 主題に関心をもち、自分の想いを詩の形式で表現しようとしている。 ・ 他の生徒の意見をふまえて意見を発表しようとしている。
話す・聞く能力	・ 他の生徒の意見を受け止めた上で、自分の意見を発表している。
書く能力	・ 主題に対する自分の想いを、詩の形式で表現している。 ・ 他の生徒の作品からその想いを感じ取り、適切な批評を加えている。
読む能力	・ 主題に関連した詩や他の生徒が作った作品を、作者の想いを想像しながら読み味わっている。
知識・理解・技能	・ 詩の表現技法について理解し、詩に用いられる言葉について吟味している。

四、指導に当たって

(一) 単元観

本単元は「共生」の第一歩として、他者理解と自分理解とを目指した単元である。谷川俊太郎作「生きる」の詩を読み味わうこと、作者の「生きる」に対する想いを想像する。その後、生徒は「生きる」を主題とした詩(タイトルは別)を各自制作することとなる。

自分が作った詩と、他の生徒が作った詩とを読み味わうことで、他者の「生きる」に対する考え方を知り、普段同じ教室で過ごしている他の生徒と自分に対する認識を深めていくことをねらいとしている。また、「人にとって生きるとは何か?」と問いかけることは中学校一年生にとっては観念的で抽象度が高く、なかなか具体性をもって考えられる問題ではない。生徒によっては言葉の上だけの表層的な理解に留まってしまうことも懸念される。そこで本単元では、星野富弘の作品と文章とを話し合いの資料として提示する。星野富弘氏にとって詩とは何だろうか、どういった想いを詩に込めているのだろうかと考えさせる。人にとって「生きるとは何か?」と考えるための足がかりとしていきたい。表層的な言葉の上での理解に留まらず、単元を通して考え、つむいできた想いを生徒自身にフィードバックさせたいと考えたためである。

(二) 生徒の状況

一年二組は全員が附属小学校からの内部進学生のクラスであり、小学校から共に学んできた生徒たちである。国語の学力で見れば、一学年四クラス中上位に位置する。普段の学習の様子からいえば、あまり多く意見を出すクラスではなく、各人がじっくりと意見を練り上げてから発言することが多い。しかし、決して話し合いへの興味関心が薄いのではなく、他の生徒の書いた文章や読書紹介(注 日常からの取り組み)を配布すると、興味をもって読みふける姿を見せる。多様な考え方や発言が許容されうる本単元で、どれだけ生徒たちが主体的に話し合いを展開していけるか期待している。

学習経験から見ると、詩を中心に扱う単元を学習するのは今回が初めてであり、詩的な表現に対する理解はまだ十分とはいえない。一学期に短歌や俳句の制作は経験しているが、散文形式の詩の制作は今回初めての学習となる。

(三) 教材観

『生きる』(詩/谷川俊太郎)、『生きる』わたしたちの思い(詩集/谷川俊太郎編)、『愛、深き淵より』(随想/星野富弘)の三つを教材として扱う。

『生きる』は「生きていく」ということ、今生きていくということ」で各連が始まる口語詩である。生きるということに関して作者が直接に感情を表現するのではなく、「それはくそれく」と物事や場面を列挙することで、作者自身の想いを読み手に訴えかけてくる詩である。感情表現が直接的でないからこそ、読み手が想像力を働かせることができ、かえってイメージが鮮烈になるのである。この詩は難解な語句や言い回しが用いられていないため、中学生でも初読で読むことができる。各連で表現されていることや作者の視点が異なっていることを読んでいく中で味わわせた。

『生きる』わたしたちの思い』は谷川俊太郎作「生きる」に感動した人々が、ソーシャルネットワークサービス上の掲示板に集って、それぞれに「生きる」の形式を模した短詩を書き連ねていった結果生まれた詩集である。本単元では生徒一人一人の作品に対して相互批評を行う学習活動を設定しているが、この詩集を生み出すきっかけとなった事象から着想を得ている。

『愛、深き淵より』は「花の詩人」とも称される星野富弘の随想集である。『花の詩画集』などに代表される詩と絵とを融合させたスタイルの作品も生徒の参考とさせたいとこ

るだが、本単元では星野氏の生き方そのものを生徒に紹介したいと考え、教材として選定した。星野氏が闘病生活の中で創作をするようになったことの意味、その作品に（あるいは詩そのもの）込めた想いを感じさせることで、生きるということに対する生徒たちの考え方に新たな側面から刺激を与えたいと考えた。命と向き合って創作活動を行う星野氏存在を知ることで、単元のテーマについて生徒が自分自身に引きつけて考えられるように促したい。また、自分の想いを言葉や絵で表現することの意義を考えられるように支援をしていく。

五、単元の指導計画と評価計画（全七時間版）

時次	学習活動・学習内容	具体的評価目標
1	谷川俊太郎作「生きている」を讀み、読後の感想を交流する。	・詩の内容を自分なりに受け取って感想を書ける。
2	「生きている」の詩に向き合い、繰り返し用いられている「生きている」を確認し、「連」について学ぶ。	・連発的の語彙を覚えている。
3	「生きている」をテーマとしたイメージマップを作成した後、各自で「生きている」をテーマとした二行詩を作成し、全班で作者とクイズを遊ぶ。	・テーマに基づき自分の想いを二行詩で表現している。
4	「生きている」「生きている」など短く表現を連発させる表現や、体言止めの表現について学ぶ。	・他の生徒の二行詩から、作者の想いを想像し書ける。
5	各連の構成について考え、その効果について意見を交流させる。	・詩表現の効果について理解し、自分の意見を簡潔に発表することができる。
6	「生きている」の詩を制作する。詩にそのイメージマップの下の書き出しを参考にしながら書く。	・自分の想いを詩の形式で表現しようとしている。
7	「生きている」の詩を制作する。 （制作を終えた生徒は、作品の解説を書く）	・テーマについて自分なりの意見を持つ。話し合いの積極性に参加している。
8	「生きている」をテーマとした絵くみ合わせを行う。 （資料「星野富弘詩集」を深く読み、他『』	・作品の具象的なポイント（表現の仕方、構成、イメージ）に対してコメントを書ける。
9	「生きている」の詩を讀んで、互いにイメージマップについて交流する。 （本時）	

六、指導に当たっての工夫等

・辞書の活用について
↓意味の分からない言葉が出てきた際に辞書を用いて調べよう。日常から声をかけ、国語の時間には辞書を用意するように繰り返し指導をしている。辞書の活用は、国内小出身生徒はもとより、特に日本語を第二言語とする生徒には低学年のうちから定着させておきたい学習習慣である。帰国生徒にとっても、語彙の不足が国語学力の向上の妨げとなることが多い。だからこそ、難語句や初めて目にする単語を辞書で自発的に調べられる習慣を身に付けることは大きな意味をもつものと考えている。本単元では、第一次第一時において谷川俊太郎作「生きている」を辞書を活用しながら個別に読み味わう活動を取り入れた。国内小出身の生徒と比べると時間はやや多くかかる生徒もいたが、辞書を活用しながらも一篇の詩を自分の力で読み通せたことに達成感をもった生徒の姿が見られた。

七、本時（7/7時）の展開

- (一) 本時の目標
 - ・詩的な表現について考え、他者の作品から作者の想いを感じ取ることができる。
 - ・他者の作品から作者の想いを読み味わい、適切な批評を加えることができる。
- (二) 本時の評価基準
 - ・主題に関連した詩や他の生徒が作った作品を、作者の想いを想像しながら読み味わっている。（読む能力）
 - ・他の生徒の作品からその想いを感じ取り、適切な批評を加えている。（書く能力）

時次	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (観点・評価方法)
五時	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り
十時	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り
十時	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り	○前時までの振り返り ○前時までの振り返り ○前時までの振り返り

五	終末	十二	② 展覧会
<p>味を考える。</p>	<p>4 まとめ ・ 単元を通じ て、一番印象に 残った作品(生 徒作品でもよ い)を考える。</p>	<p>3 詩の鑑賞会を 開き、作品を鑑 賞して相互評価 を行う。</p>	<p>・ 互いの作品を鑑賞し あい、作品に対するコ メントを寄せ合う。</p>
<p>方から、詩や絵のもつ 価値について考える。</p>	<p>・ 印象に残った詩を発 表しあう。</p>	<p>・ 作品に対するコメ ントは作品のよかつ た所だけでなく、読 み取れた想いや作者 に対して伝えたいこ とを書くように指示 する。</p>	<p>・ 詩や絵が人に与え る効果について自分 で、星野さんはどん な気持ちになるのだ らうか。</p>
<p>・ (補助) 詩を作る ことや絵を描くこと で、星野さんはどん な気持ちになるのだ らうか。</p>	<p>・ どのような点が印 象に残っているか考 えさせる。</p>	<p>・ コメントはなるべ くいろいろな作品に 対して書くように声 をかける。</p>	<p>・ 作者の想いを想像 しながら、作品を鑑 賞している。</p>
<p>・ 詩や絵が人に与え る効果について自分 で、星野さんはどん な気持ちになるのだ らうか。</p>	<p>・ 積極的に発言しよ うとしている。 ・ 作品に対して理解 をもち、その印象に 残った点を伝えよう としている。</p>	<p>・ 根拠をもって適切 な評価をしている。</p>	<p>・ 詩や絵が人に与え る効果について自分 で、星野さんはどん な気持ちになるのだ らうか。</p>

第二学年 国語科学習指導案

東京学芸大学附属国際中等学校
公開研究会

指導者 石川 直美
日時 平成二十三年二月十九日(土) 第二時間目
教室 W棟三階 三〇三教室
対象生徒 二年三組 二十九名(内 帰国生・来日生 十一名)
教材 教科書(学校図書 中学二年)
「アラスカとの出会い」(随想 星野道夫)
「目撃者の眼」(ドキュメンタリー ジョーIIオダネル 文・上田勢子)

- 一、単元名
「人生」を考える
- 二、単元の指導目標
- 1 様々な種類の文章を読み、そこに描かれた人の生き方を探ることが出来る。
 - 2 いろいろな人の人生を知ること、自分らしく生きることが出来る。
- 映像(補充教材として)
「原爆の夏 遠い夏の少年」 (NHK 2004・2・23)
「解かれた封印 米軍カメラマンが見たNAGASAKI」 (NHK 2008・8・7)
「大地の子、祖国に立つ」(中国残留孤児・葛藤する家族) (NHK 2001・4・10)

三、単元の評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解・技能
	「人生」についての考え方が、学習の積み重ねと共に広がっている。	・ 班の話し合いで、自分の考えを伝えている。 ・ 班でまとめた意見を、聞き手に分かりやすく伝えている。 ・ 他の班の発表を聞いて、質問をしている。	・ 文章や映像に表されたそれぞれの生き方について、自分なりの考えや疑問を書いている。 ・ 文章や映像に表された書き手や登場人物の心情を、正しく読み取っている。	・ 随想・戯曲に表された書き手や登場人物の心情を、正しく読み取っている。	・ 文章中の言葉の意味を正しく理解している。 ・ 自分の考えをまとめるときに、言葉を用いて正しく使っている。

- 1 -

四、指導に当たって

(1) 単元観

中学二年生ともなると、自分が将来何になりたいかについて考えることは多いだろう。では、どのような生き方をしたいかについてじっくり考える機会はあるだろうか。小説を読むことでいろいろな人生を生きていることが出来るといわれるが、生徒は小説の中の「出来事」には興味をひかれても、そこから、登場人物の生き方まで考えることはあまりないと思われる。国語の授業でいろいろな作品を扱うときも、そこに描かれた人物、あるいは書き手の人生や生き方を考えさせたいと考えている。しかし、年間の教材配列の関係で、生徒にそれを意識させ続けることは難しい。

そこで、今回は、「人生を考える」という単元を設定し、人の生き方そのものに焦点を当てて学習を進める機会を作ろうと試みた。教科書の三つの教材を組み合わせ、さらに、その教材に関連した映像を使う総合的な単元にした。作品に描かれた人、あるいは作品を書いた人の人生や生き方を探ることにより、自分の生き方、さらには、自分らしく生きるとはどういうことを考えるきっかけにしたい。

(2) 生徒の状況

中学二年生は、四クラス全てに帰国生・来日生が在籍している。したがって、国語力だけでなく、日常的なことに対する理解の状況も様々な生徒が一緒に学習していることになる。そこで、言葉の意味については、丁寧に確認するように配慮している。ほとんどの生徒は電子辞書を使っている。帰国生・来日生にとっては(五十音の順書きを知らなくても)手早く検索できるため電子辞書が便利で、自分の分からない言葉があると辞書をひいている。語によっては、対応する英語を調べて理解を図っている生徒もいる。

授業中の活動としては、班での話し合いや発表をする活動を多くし、日本語力が十分でない生徒も意見の交流がしやすいようにしている。

(3) 教材観

教科書教材は、「アラスカとの出会い」(随想/星野道夫)、「目撃者の眼」(ドキュメンタリー/ジョーIIオダネル)、「花いちもんめ」(戯曲/宮本研)の三つを扱う。

単元の最初の教材として、「アラスカとの出会い」を読ませる。星野道夫が自身の人生におけるきっかけについて書いた随想である。「出会い」の不思議さ、そして「人生はかろくに満ちている」という考えなど、人生を考える学習の入口としては、生徒の興味をひく分かりやすい教材である。

「目撃者の眼」は、ジョーIIオダネルが、従軍カメラマンとして長崎の被爆の状況を目撃したこと、アメリカは原爆を落とすべきではなかったと訴える文章である。この文章と、オダネルの生涯を特集した映像を合わせて学習することにより、生徒は、正義を通して生きることが、そしてアメリカ人でありながらアメリカを非難する生き方を選択したことへの苦悩に気付く。人生における「出会い」「きっかけ」「選択」などについて、「二つの教材と異なる視点で考えさせる」ことが出来る。

「花いちもんめ」は、残留孤児の母親の苦悩を描いた戯曲(一人芝居)である。生徒は、母親の苦悩や罪悪感を読み取ることが出来る。しかし、自らを責めて娘に会わないという

- 2 -

東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

まとめ 5分	展開 20分	展開 1
<p>(課題)</p> <p>本時のまとめ</p>	<p>3 母の生き方とこれまで学んできた二人の生き方を総合して考える。</p>	<p>2 母の思いに(班活動) ついて考える。</p>
<p>2 これまでの学習を通して、生き方について自分の考えがどう変化したか、自分らしく生きるとはどういうことかについてまとめる。</p>	<p>1 三人の、人生に対する考え方の共通点や相違点を考える。 2 班ごとに、キーワードを提示して一分半で発表する。 3 お互いに質問をして理解を深める。</p>	<p>4 母がなぜ旅をしているのか話し合う。</p>
<p>1 人生のイメージマップに、新たな言葉を書き加える。 2 これまでの学習を通して、生き方について自分の考えがどう変化したか、自分らしく生きるとはどういうことかについてまとめる。</p>	<p>三人の生き方に共通するキーワードはあるでしょうか。それぞれ別の生き方のキーワードを考えてみましょう。</p> <p>1 三人の、人生に対する考え方の共通点や相違点を考える。 2 班ごとに、キーワードを提示して一分半で発表する。 3 これまでの感想プリント、人生のイメージマップを振り返らせる。</p>	<p>母は、なぜ通路の旅をしているのでしょうか。 母の「通路の旅」の意味を、撫子の思いと絡み合わせで考えさせる。</p>
<p>・まとめの文章に学習したこととが反映されているか。 ・自分らしく生きるということについて、読み手に分かりやすく書かれているか。</p>	<p>・星野道夫・ジョー・オダネルの人生から導き出したキーワードと合わせて考えさせる。 ・これまでの感想プリント、人生のイメージマップを振り返らせる。 ・人生が、置かれた状況や時代によっても影響される(MYP「操作」)ことにも気付くことができたか。</p>	<p>母の「通路の旅」の意味を読み取ることができたか。</p>

第二学年 国語科学習指導案

東京学芸大学附属国際中等学校
公開研究会

指導者 中田嘉穂
日時 平成二十三年二月十九日(土) 第1時間目
教室 W棟三階 三〇三教室
対象生徒 三年二組 二十九名
教材 安藤邦廣「松と杉」(「現代の国語」三書堂)
黒崎政男「クローン問題と現代の幻想」
荘子「渾沌」(「漢文名文選」大修館)

一、単元名 選択と操作

二、単元の指導目標 無関係のように見える三編の文章を読みながら、人々の何気ない選択が世界を動かす(操作する)元となっていることを理解させ、選択することの責任についても考えさせる。

三、単元の評価規準

関心・意欲・態度	文章で取り上げられている素材に関心をもちつことができたか、内容に選別が操作につながることに気づいたか。
話す・聞く能力	グループの話し合いで自分の意見を的確に伝えたか。他の生徒と意見を交換できたか。自分たちのグループの考えをまとめて発表できたか。
書く能力	作品を読み、その内容をまとめた後自分の考えを書くことができたか。
読む能力	文章の論旨を理解し、筆者の考えを正確に読み取ることができたか。
知識・理解・技能	文章中の語彙を正しく理解することができたか。自分の考えを表現するときに言葉を用いて使うことができたか。

四、指導に当たって

(1) 単元観

MYPの教科間連携の中心概念が「操作」であるが、「操作」を正面から説明した内容では考える動機が不足すると考え、人の選択が結果として「操作」につながるという筋道を考えた。人々が日常行っている選択行為がやがては大きな状況動かす操作の力の元となっていることに気づいてほしいと考えたからである。またこのことを深く考察することは現代の問題について考えることにつながると考えられる。

この目的に沿った文章として「松と杉」、「クローン問題と現代の幻想」を採用した。またその考えを深める材料として荘子の「渾沌」も使用することにした。

(2) 生徒の状況

中学三年生は帰国生も各クラスに在籍している。帰国当初は日本語力・国語力に問題があった生徒も次第に日本語の言語環境になじみ、今日では取り出しなど個別の指導を必要とする生徒はいなくなった。しかし、理解の遅い生徒も混在しているため、学習の状況を常に把握することは大切である。

本時のクラスは国語力等は平均的な集団であり、率直に発言するなどのよい点も少ない。

(3) 教材観

「松と杉」は中学三年生の教科書に掲載されている文章で、分かりやすく平易な文体である点に着目して採用した。松や杉はかつて農業や生活を支える重要な素材であったが、現代にあつては便利な石油化学製品の普及に伴い、見捨てられることになって松林や杉山が荒廃する結果になっているという点に着目して、選択は操作につながるというものの見方の材料とすることにした。

「クローン問題と現代の幻想」は、生活が豊かになり、技術の進歩によってあらゆるものが交換可能になりつつある中でも生命だけはかけがえないものであったのだが、それさえもクローン技術と生殖技術により交換可能な時代が近づいたことを指摘することにより、すげ替え可能になるかもしれないという点を指摘する。新技術の開発がその結果として喪失に耐えられない現代人の根本的な心の弱さをもたらすかもしれないという予言をしている。これも選択は操作につながるというものの見方の材料として使えると考えた。

荘子の「渾沌」は善意であっても人工的な操作は破局を招くことがあるということを確認的に知ることができると分かりやすいと考え採用した。

五、単元の指導計画と評価計画(六時間扱い)

次	学習活動・学習内容	学習活動・具体的評価規準
一	「松と杉」 「松」の部分について読解 対象地域をめぐって政府付近の様子を確認 松が農業を支えてきたという事実を理解する	松と杉の長い間地域の農業や人々の生活を支えたが、その後人々が新しい素材を求めた結果見捨てられ、松林や杉山が荒廃したという文章構造が理解できる。また、その内容を文章化できる。
二	「杉」の部分について読解 素材としての優劣性、用途を確認 森林の環境を保全するようになった事情を確認	

二時	「クローン問題と現代の幻想」 クローンについての基礎的な知識の講義。動物と植物の違い。 人々が倫理的に捉えていない点などについての事例の確 認。 文章構造の講義。読解。他の読解資料を読む。 若手より一週単位	文章の構造が把握でき、筆者の説明が 理解できる。 筆者の予言的な結論が理解できる。 また、その内容を文章化できる。
三時	要点・訓練・書き下ろしの講義	訓練できる。 意味を言える。 内容についてその内容を説明できる。 また、その内容を文章化できる。
四時	本時 三つの文章のまとめ。構図と構文の意義や問題点を考察する。	七(2)参照
一時		

六、指導に当たっての工夫等

専門的な用語や事項については連携の相手である理科から資料の提供を受けた。
文章の細部を正確に読みながら、作者の考えを大局的に捉えることを強調した。

七、本時の展開

(1) 本時の目標
三つの文章を材料にして、より便利なものを人々が選択することにより発生する問題
を予想し、選択することの責任についても考えさせる。この単元の最終時であり、まとめ
の時間である。

(2) 本時の評価基準

- 三編の文章から考えを深めることができたか。
 - 読むこと(1)エッセイに表れているものの方や考え方について、知識や体験と
関連付けて自分の考えをもちこと。
 - グループの話し合いにおいて、互いの意見を聴き、まとめることができたか。
 - 話し合いの結果を、自分の考えとして表現することができたか。
- 話し合いの過程(1)「本相手の場や書き手」目的に沿って話し合い、互いの意見を聴いて
自分の考えをまとめること。

時	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価基準 (観点・評価方法)
2	・挨拶 ・本時の進め方 について説明	グループで話し合っ て結果を発表する。	文章構造を大局的 に捉える事を強調す る。 各グループを巡回 して助言する。 結果に対し不足を 補い、疑問点は質す。	考えを出し合っ て話し合えたか。 要点を書いて表現 できたか。 要領よく説明でき たか。
5	「クローン問題 と現代の幻想」 について「松と 杉」の例と共通 する構造は何か 考える	ホワイトボードに書 き、黒板に掲示して代 表者が要点を解説する。	内容は特殊な事例 ではない点を確認す る。 内容は確認の補助を する。要点板書。	文章の要点と筆者の 意見が理解できる。 その内容を発表でき る。
3	新しい物や技術 を選択した結果 世の中が好まし くない方向に変 化していくこと の例を考える。	ホワイトボードに書 き、黒板に掲示して代 表者が要点を解説する。 言う。	代表的な意見を紹 介し、批評・感想を 言う。	要点を書き出して表現 できたか。 要領よく説明でき たか。
5	新しい物や技術 の導入に当たっ て考慮しなければ ならないこと を確認。	「渾沌」の要旨を確 認する。	選択が後世に悪影 響を及ぼさないよう に事前の影響予測が 大切ということの確 認をする。	要旨と寓意が説明 できるか。
10	影響予測が大切 なことは自明な こと	個人か意見を書き 込ませて考える。	書かれた結果に対 し不足を補い、疑問 を表現する事ができ	

<p>まとめの言葉</p>	<p>のに、失敗例が 後を断たない理 由を考える。個 人で考えて指摘 する。</p>
<p>「選択と操作」の意 味を説明する。</p>	<p>点は質す。 ・代表的な意見を紹 介する。</p>
	<p>たか。 ・内容を的確に説明 することができた か。</p>

第四学年 国際教養科 学習指導案

東京学芸大学附属国際中等学校
公開研究会

指導者 杉本 紀子

日時 平成二十三年二月十九日(土) 第一時間目

教室 W棟二階 二〇一教室

対象生徒 四年三組 三〇名(内帰国生・来日生 一七名)

教材 黄表紙『孔子編于時蘆染』(岩波日本古典文学大系) コピー

『江戸の判じ絵』(小学館)「新版 判じ物 虫」コピー

一、単元名

文化伝承の意義を考える

―教科書に載らない古典の価値を考えよう―

二、単元の指導目標

伝統文化としての古典の価値を再確認し、それを継承する意味を考える

三、単元の評価規準

- ・補助教材を使いながら、古典作品の本来的な絵の情報を読み取っている。
- ・時代背景を考えて、作品に込められた意味を解説している。
- ・教科書に載らない古典の価値を考え、日本文化のみならず、異文化においても同様に文化を継承・保存していくことが重要であることに気づいている。

四、指導に当たって

(1) 単元観

江戸時代後期に出された絵本や草双紙を題材に、当時の人々の言語遊技のあり方やそのおもしろさ、また当時の世相(天明の飢饉・寛政の改革)を庶民がどう受け止めていたかを考える。

我々日本人が、古典を学び、読み続ける理由、意味をあらためて考えてみる。そこには単なる知識の獲得にとどまらない、文化継承の姿勢形成という大きな意味を見出すべきだろうと思う。古典文学の中に息づく当時の人々の表情や意識を読みとり、時代背景との関連を考えさせることで、ともすれば歴史の年表や事典からはもれてしまうような事柄が、古典文学の中に生きていることに気づかせたい。そうすることで、生徒自身が古典文学を読む意味、保ち、継承していく意味を見出せればと考える。また、この点にこそ「国語」につながる点があると思われる。

教科書には載っていない題材となるが、通常学習してきた歴史の授業や国語の授業との関連も考えられ、日常の学習で得た知識や読解力をいかに駆使するかが生徒に意識されるようにしたいと考える。

(2) 生徒の状況

帰国生徒の多いクラスである。国語力にはばらつきがあるが、古典の学習の中でも特に

場面を想像したり、古語の多様な意味を知るという活動に対しては積極的に取り組む姿勢がみられる。

(3) 教材観

今回利用する教材は、高校生の教科書には採録されないものばかりである。近世の作品はその内容や文法が破格であることを理由としてごく一部の作品を除いては、採録されることが少ない。だが、近世は歴史的にみても、古典文学史的にみても、多様な世相や文化が見られる時代であり、それを庶民層が読んだ作品群から読み取ることが出来る時代である。判じ絵や謎掛け絵本には今日にも通じる言語遊技のおもしろさが見られるし、世相を描いた黄表紙には、当時の庶民(特に江戸の庶民)が自分たちのおかれた状況をどのように見ていたかがうかがえる。そういう読み方ができる作品だからこそそれを通して、古典を読むおもしろさとそれを文化として継承していくことの重要性を気づかせられるのではないかと考える。

五、単元の指導計画と評価計画(1時間扱い)

次 時	学習活動・学習風景	学習活動・具体的評価規準
(1) 時	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の後期の時代状況について知る。 ・今回扱う作品について知り、多くの教科書にも採録されず、限られた図書館にしか所蔵されていないことを知る。 ・判じ絵や謎掛け絵本を解説し、現代の我々の文化も感性に通じていることを気づかせる。 ・黄表紙の一部の場面を、時代背景や関連させて読み解き、庶民の暮らしや考えを想像してみる。 ・教科書に載らない古典の価値を考え、まとめてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代後期のイメージを持つ。 ・文中の情報を、書評的情報を、辞書などを使いながら、判じ絵や謎掛けを実際に読み解いてみる。 ・日本史の教科書や傳記を使いながら黄表紙の場面が得られる情報を読み取り、そこに込められている当時の状況や庶民の考えについて、班の意見を述べていく。 ・教科書に載った作品のおもしろさについて考えを述べる。

六、指導に当たっての工夫等

日本史を学習していない生徒も多いため、歴史的背景の理解に時間がかかると思われる。その点に関しては、便宜の活用とともに年表や時代についての簡単な解説を配布するとともに、絵や図版を活用して江戸時代のイメージ作りにつなげる。

また、日本の古典を読み慣れない生徒に対する導入として、絵を読み解く作業を取り入れ、これも古典を読むという学習であることを認識させ、古典に対する抵抗感を少な

くする工夫をする。

七、本時の展開

(1) 本時の目標

伝統文化としての古典の価値を再確認し、それを継承する意味を考える。

(2) 本時の評価基準

- ・補助教材を使いながら、古風作品の本文と絵の情報を取り取っている。
- ・時代背景を考えて、作品に込められた意味を解説している。
- ・教科書に載らない古典の価値を考え、日本文化のみならず、異文化においても同様に文化を継承・保存していくことが重要であることに気づいている。

(3) 本時の学習過程

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価基準 (観点・評価方法)
5分	「国際教養」で学ぶことの確認	前期課程3年間と後期課程1年間で学んできたことを思い起こす。	「国際教養」で今まで学んで来たことを思い出させる。	現在の自分の学習が、今までの積み重ねで成り立っていることに気づけるか。
10分	【展開1】 教科書に載っていない古典の存在について知る	江戸の判じ絵や地口絵の本を見て、そこに描かれていないものから情報を読み取ってみる。	江戸時代の後期に刊行された言葉遊び絵本を提示し、これも古典であることを示唆する。 絵や短い言葉から情報を読み解き、おもしろさがわかるかどうかを問いかける。	・古典文学の多様性に気づいているか。 そのおもしろさに気づいているか。
20分	【展開2】 教科書に載ってない古典の本や絵を、実際に読む機会を、その価値を考える。	作品の時代背景について世相と密接に関係している賞状紙作品の一部を読み解いてみる。	絵と本文から多様な情報を取り取れるよう工夫された作品があることを紹介し、世相との関わりが読	・作品が生み出された時代背景と作品の内容を関連させて、その意味を読み取れているか。

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価基準 (観点・評価方法)
15分	【展開3】 文化継承の意義について考える	教科書に載っていない作品の価値について考える。	読み取った事柄を短稿とに発表する。	読み取れることを示唆する。 時代背景について補足資料を見ながら説明をする。 ○こうした作品にはどのような価値があると思うか。
		古典を学習すること、古典を読み、それを文化として継承していくことにはどのような意義があるのか、考える。	○自分たちが考えた価値あるものを継承していくことが必要だと思えるか。	・文化を継承していることの重要性・意義に気づけているか。
		日本の文化だけではなく、他国・他地域の異文化でも同様のことが言えるかどうか考える。	○日本以外の地域ではどうだろうか。	

第四学年 国語科学習指導案

東京学芸大学附属国際中等学校
公開研究会

指導者 山根正博

日時 平成二十三年二月十九日(土) 第一時間目

教室 W棟二階 二〇四教室

対象生徒 四年四組 二十八名

教材

見田宗介「南の貧困／北の貧困」(『現代社会の理論』岩波書店 一九九六年
『高等学校 現代文 改訂版』三省堂 所収)
NHK 『ハゲタカ』(二〇〇七年二月十七日～三月二十四日)
(原作は真山仁による小説『ハゲタカ』(二〇〇四年)と『バイアウト』(二〇〇六年))

一、単元名

日本人と経済

二、単元の指導目標

- 1 様々なジャンルの作品を読み、ある接点を見出して考えることができる。
- 2 単純に善悪に片付けることのできない資本主義と人間の関わりを理解し、資本主義経済の中で、人間らしく生きるとはどういうことか考えることができる。

三、単元の評価規準

関心・意欲・態度	お金と人間の関わりについて、考えを広げようとしている。
話す・聞く能力	グループの話し合いで、自分の意見を伝えることができる。
書く能力	グループの話し合いで、他者の意見をきちんと受け止めている。
読む能力	様々なジャンルの作品の接点について、自分なりの考えをわかりやすくまとめている。
知識・理解・技能	様々なジャンルの作品を読みながら、その関連を見出し、自分なりの考えを深めている。
技能	作品内の言葉の意味を正しく理解している。

四、指導に当たって

- (1) 単元観
高校一年段階の教科書のほとんどで『羅生門』が掲載されており、『羅生門』の学習

を、「生活や人生について考えを深め」(学習指導要領)るきっかけとしているように思われる。しかし、時代設定があまりに現代とかけ離れており、身近な問題として捉えづらいつい点があることは否めない。より身近な問題を通して「生きるためなら仕方がない」という類の問題を考える教材として、「ハゲタカ」を取り挙げた。また授業内で扱う「ハゲタカ」からは抽出しにくい「お金を持つがゆえの悲劇」にも焦点をあてるために、「南の貧困／北の貧困」を併用し、お金と人間の関わりについて考えを深めることを狙った。

(2) 生徒の状況

附属小の生徒・その他の生徒が混在しているが、本学入学後三年以上を経過しており、出身校による違いは薄まってきている。また当該クラスはイマージョン授業を選択していない生徒が集められているので、日本語を母語としている生徒が圧倒的に多い。国語の学力という面では、全員が高いレベルにあるとは言いが切れないので、その点については注意を払う必要がある。

(3) 教材観

「南の貧困／北の貧困」は高校二年以降の教科書に掲載されている教材である。後半になって抽象的な語彙を多用した展開が目立ち、生徒にとって易しい教材とは言えないが、具体例を用いて説明している前半を中心に貧困を生み出す構図について読み取らせたい。

「ハゲタカ」はバブル崩壊以後の日本を舞台にしたドラマである。「南の貧困／北の貧困」よりも身近な世界における人とお金の関わりを考えることのできる作品であり、「南の貧困／北の貧困」と共通する問題を内包している。不良債権をめぐる経済情勢を理解した上で、繁栄と豊野を通して人とお金の関わりを考えさせたい。

五、単元の指導計画と評価計画(九時間扱い)

次	学習活動・学習内容	単元的評価規準
一次	「南の貧困／北の貧困」 下二エの農民の話を踏まえて、南の貧困の図式を講義する。 『羅生門』の「羅生門」の文脈について理解する。 南の貧困の図式を用いて、北の貧困の図式を講義し、適切な具体例を挙げる。	・各の例を挙げて、講義されている図式を講義できたか。
二次	「ハゲタカ」 繁栄と豊野の価値観の違いを講義する。 外資系ファンドに代表される日本人の反応を講義する。	・時空を踏まえて、二人の生き方の違いを講義できたか。
三次	原作とドラマとの、扱われている問題の位置がどのように異なるかを考える。 資本の論理を踏まえて、両方について考えを深める。	・グループで話し合い時、各の立場の話を受け止めることができただか。

三次	「南の島国」北の島国「ハゲタカ」 ・資本主義経済の中を生きていく人生を描いていくことが出来るか。 ・他の教材との関連を考察する。	・二つの教材のつながりを考察出来るか。 ・他の教材との関わりを言語化して見ることが出来るか。
----	--	---

六、指導に当たった工夫等

- ・時代背景、社会情勢が分からない生徒も多いため、適宜説明し、理解を促す。
- ・同じ作品について、映像と文字表現を併用することで、理解を促す。

七、本時の展開

- (一) 本時の目標
資本の論理を超える何かについて考えを深める。
他者のものの見方をきちんと受け止める。

- (二) 本時の評価規準
1 鷺津・芝野それぞれの立場に立って、作品を理解できている。
2 鷺津・芝野それぞれの生き方の問題を探り、人物について考察できている。
3 グループの話し合いで、他者の意見をきちんと受け止めて、考えている。

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (観点・評価方法)
0 発問1	「これからの社会で鷺津タイプが増えるか? 芝野タイプが増えるか?」について考える	返却されたプリントをプリント返却・巡回のもとに次の三本について、班ごとにまとめる。	プリント返却・巡回	・自分の考えをうまく他者に伝えることができたか。
	「鷺津」を支持できない理由	「芝野」を支持できない理由	互いの主張をきちんと理解するように指示する。	・他者の意見に耳を傾け、その意見を参考にする。それができただか。

発問2の解答を先取りしてしまう可能性がある。発問1については黒板を使っている集約などは行わない。

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 (観点・評価方法)
15 発問2	ある場面の鷺津・芝野に対し、投げ(問い)かけた言葉	見せる予定の場面	「お金を稼ぐことはいけないことですか?」	・対鷺津・対芝野の短い言葉で核心を突くような言葉を考えているように指示をする。できたか。
30	班ごとに発表する	班ごとに発表する	対鷺津(第三話 逆襲) 「情で飯が食えますか?」 対芝野 「そんなに稼いで何がしたいの?」	・鷺津・芝野の生き方を踏まえた上で、効果的な質問を考えることができたか。
43 発問3	もし鷺津・芝野に質問できるとしたら、どの言葉を選ぶか、個人で考える	班の形態から元の状態に戻す。ワークシートを回収する。個人・芝野を観を振り返る。用紙のワークシートを配布し、指示を出す。	黒板にまとめる。	・自分の中の鷺津観をまとめることができたか。
43 発問4	エンディングを見た上(二分半)をワークシートで答える	エンディングを見た上(二分半)をワークシートで答える		・自分なりの考えをまとめることができたか。

参考 ドラマの内容 (英語訳より)
鷺津(大森南朋)は、バブル経済崩壊後、ある事件をきっかけに「三葉銀行」を退職。渡米したのち、投資ファンド「ホライズン・インベストメント・ワークス」日本代表に就任し、帰国。ファンドマネージャーとして次々と日本企業を買収する「ハゲタカ」という異名を持つようになった。そして三葉銀行の資産流動対策室の室長であり、鷺津の元上司であった芝野(柴田恭兵)と再会することになる。銀行がかかえるバルクセル(保有価値のまとめ売り)を売る側、バルクセルを買う側という様に。その後、まるで運命に導かれるように、二人は何度もぶつかることとなる。

八、板書計画

:	班	班	班	鵜津	鵜津・芝野に対する言葉 支持しない理由
				芝野	
					鵜津 支持する理由
					芝野 支持する理由
					支持しない理由

国際中等教育研究

国語科における単元実践例（1～5年）2011年度1学期

	学年	科目	単元	教材	関連するAOI	GuidingQuestion（単元における主たる発問）・目標
MYP 対象学年	1	国語	家族の中で(小説)	ふろ場の散髪	学習の姿勢	家族の中で成長するとはどういうことか。
			家族の中で(小説)	兄やん	学習の姿勢 人間の創造性	集団と個はどのように関わっていくべきだろうか。
			命の鎖(説明文)	モンシロチョウの手旗信号	学習の姿勢 多様な環境	環境によって生物のあり方はどう変わっていくか。
			命の鎖(評論)	変わる動物園	学習の姿勢 多様な環境	生物と人間はどのように関わっていくべきだろうか。
	2	国語	説明文	教科書 「言葉の意味はだれが決める」	人間の創造性	言葉はなぜ変化するのだろうか。
			説明文	教科書 「逃げることは、ほんとにひきょうか」	健康と社会教育	心の中で生まれる葛藤とは何か。
			小説	教科書 「サーカスの馬」	人間の創造性	物語を読むための視点とは何か。
			小説	教科書 「花いちもんめ」	健康と社会教育	時代の流れは人々の生活にどのように影響を与えるか。
			説明文	教科書 「言葉の力」	人間の創造性	言葉が持つ力とは何か。
			随筆	教科書 「高名の木のぼり」 - 徒然草より -	多様な環境	古典が現代に伝えるものとは何か。
	3	国語	授業開き	教科書 「おたまじゃくしたち四五匹」	学習の姿勢	交流を楽しむとはどういうことか。
			社会に向けて	教科書 「ケナリも花、サクラも花」	学習の姿勢	言葉を大切に読むとはどういうことか。
				教科書 「寂しい時代と聴く力」	人間の創造性	現代のコミュニケーションの問題点とは何か。
			命の共鳴	教科書「握手」	健康と社会教育	人を大切にするととはどういうことか。
			評論を書く	自分の考えを伝えよう 「電子書籍を考える」	学習の姿勢	他の人の考えは自分にどのような影響をもたらすか。
	人間の創造性	電子書籍の普及は私たちの生活を変えるか。				
	4 (高1)	国語総合 (現代文)	評論を読む	「原子力のたそがれ」	健康と社会教育	原子力発電の問題点を考える。
			評論を読む	「やっぱり」	人間の創造性	日常語に表れた日本人の深層心理。
			小説	「羅生門」	人間の創造性	文学は人間の倫理をどのように描いてきたか。
					健康と社会教育	周囲の状況に左右される人間の倫理観。
4 (高1)	国語総合 (古典)	随筆	『方丈記』	多様な環境	災害の記録を中心に、河口の埋め立て地に住まざるを得なかった日本人は災害と自分たちの暮らしをどのようにとらえていたのだろうか。(古典に慣れ、古典を読み解くための視点を得よう)	
		記録	『続日本紀』地震の記録	多様な環境		
MYP 対象外	5 (高2)	現代文	随筆	教科書 「考えることのおもしろさ」	/	人間が「考える」と人間が「生きる」とにはどのような関係が見いだせるだろうか。
			随筆	教科書「生へのシグナル」		我々人間が生きている実感を得る時はどのような時だろうか。
			小説	教科書『山月記』		人間が人間として生きるとはどういうことだろうか。
	5 (高2)	古典	随筆	『徒然草』「花は盛りに」		美意識とは何か。
			物語	『伊勢物語』「梓弓」		人の心を理解することは可能か。
			漢文	故事成語		故事来歴をひもとく。